

議 長 休憩を解いて再開をいたします。 (13時00分)

受付番号第3号、小澤啓司君の一般質問を許します。登壇願います。

8 番 小 澤 それでは一般質問を続けたいと思います。受付番号第3号、質問議員、8番小澤啓司。件名、町政運営を問う。

(1) 人口減少と高齢化が進行し、2040年、松田町の人口は7,000人台まで減少し、高齢化率は45%に達すると予測されています。近隣市町との広域連携は、避けて通れません。上郡5町で協議しているあしがら地域広域ビジョンについて、基本理念である観光振興、地域産業支援、健康長寿の考え方をお伺いいたします。

2つ目。近年、地方創生関連交付金を活用した事業運営が目立っていますが、交付金ありきの懸念があります。町民文化センターの活性化、旧松田土木事務所改修計画、木質バイオマスエネルギー計画、寄1番地活用事業など、町の将来構想にとって必要不可欠であるならば、より具体的な実施計画、方針が示されるべきですが、いかがでしょうか。以上です。

町 長 それでは小澤議員の質問に順次お答えをいたしますが、先に申し上げておきますけども、内容は結構深いので、ちょっと長くなること御承知いただきたいというふうに思います。

まず、今後の財政推計を鑑みたときに、歳入減並びに歳出の増加が見込まれ、町政運営が今以上に厳しくなることが予想されています。その原因といたしまして、人口減少、特に生産年齢人口の減少による税収減や高齢化社会を迎えていく中で、高齢医療の増加、さらには公共施設や設備などの公共インフラの老朽化に伴う維持管理費などのランニングコストの増加など、挙げられることは周知のことと存じます。

地方の行政需要は、社会福祉関連分野を中心に今後も増加が予測され、人口減少しても歳出を減らすことは容易でないという状況でございます。今後、行政サービスを補うための自主財源の確保が課題でありまして、さまざまな分野での広域的な自治体間連携強化が重要になっていくというふうには認識しております。また、町の活力を維持していくためには、県を初め各市町村が個別のまちづくりを展開するだけでなく、広域連携による政策的な展開や事務の効

率化を図りながら地域づくりを進めていくことが必要不可欠であり、広域連携の実効性を高めるためにも、地域づくりの指針を共有する必要があります。

そこで、足柄上郡5町で協議してきました「あしがら広域ビジョン」について、足柄地域の向上と関係町の住民サービスの向上に資するために組織されたあしがら地域創生連携推進協議会において協議を進めてまいりました。足柄地域の課題を整理し、各町の人口推移や行政施設、医療施設、学校等の公共施設の状況を把握し、また、各町の若手職員の議論を踏まえ、足柄地域の将来像を「いつまでも、住み続けたい、魅力と活力のある あしがら」としてまとめたものでございます。

主要施策の基本的な方向性としては、足柄地域全体で人口減少対策に取り組み、定住人口の増加を図るとともに、移住・定住のきっかけとなる交流人口の増加を目指すものでございます。主要な施策の取り組みについては、広域観光エリアとしての魅力の向上と発信を行い、未病バレー「ビオトピア」などの新たな拠点施設を活用し、広域観光エリアとして周遊性を強化する検討を行います。

また、地域産業の支援では、近隣市町との連携し、今後発展が期待される未病関連産業の促進や、エネルギーの地産地消を推進するため、新エネルギー産業の振興を図るとともに、創業支援事業者と連携しながら、地域における創業促進を図ります。健康長寿の地域づくりにつきましては、神奈川県と連携し、県西地域活性化プロジェクトを推進し、未病を改善する取り組みを強化し、シニアが元気で活躍できるよう取り組んでまいります。この協議会のワーキンググループにより、広域的な課題解決に向け、20の事業について検討を進めているところでもございます。実際にスタートした事業の一つといたしましては、子育て分野において広域連携による病児保育事業として、集団保育が困難な病気の回復期に至っていない児童に対する病児保育を、広域連携により平成30年10月より開成町内の在宅型有料老人ホーム内に併設し、事業が始まっています。

この協議会にて、今までさまざまな検討を進めてまいりました協議内容につきましては、引き続き南足柄市を含めた1市5町という枠組みで、神奈川県とも連携し、ワーキンググループ等で検討内容を継続して進め、人口減少社会へ

の対策について、広域的な共通課題の解決に引き続き取り組んでまいりたいというふうに考えております。

続きまして、2つ目の地方創生関連事業に伴う具体的な実施計画や方針についてでございます。まず、平成28年3月に策定いたしました松田町総合戦略においては、松田町第5次総合計画の将来像を継承し、これからの新しい町の取り組みの礎となる「オール松田おもてなしのまち」を踏まえて、町の地域資源を最大限に活用し、さらなる定住促進や地域経済の活性化を目指していくため、国が示している総合戦略を踏まえながら4つの基本目標を定めて、より具体的な実施計画、方針を示し、その中で各種必要な取り組みを進めているところでもあります。

まず、地方創生関連の交付金を活用した各事業については、平成25年に人口問題研究所が示した松田町の2040年の人口推移によると約7,000人となり、消滅可能性都市として名指しされ、その方向にならないために地方が自立、自走することを目指し、地方創生総合戦略を策定し、この計画が認められた事業のみに対して地方創生交付金が交付されるものであります。松田町においては、幸いにも採択をされ、これまで手つかず、または町単独経費により厳しい財政状況の中、何とかしのいできた状況を打破するために知恵を凝らし、工夫を重ね活用してきた交付金であることは御承知のことと存じます。人口問題研究所が示す最新の2040年の松田町の人口は約7,300人となり、5年前と比較して約300人ふえる結果となっておりますが、今後も町魅力の向上を図ることにより、人口減少を抑制し、さらに飛躍する松田町とすべく取り組んでまいり所存でございます。

さて、御質問にありました、現在取り組んでいる各事業について述べさせていただきます。町民文化センターの活性化につきましては、人がつながり多様な文化を織りなす場として、地域のにぎわいを活性化させるため、新たな機能を加えた複合拠点施設整備事業として取り組んでいるところでございます。この事業の目的や方針につきましては、平成25年に文化センターのあり方検討会により、今後の管理運営等の方針が示され、文化活動が停滞を招かぬよう、その都度最低限の措置を講ずるなどとされていましたが、施設の老朽化に伴う改

修費等、年を重ねるごとに膨大な費用がかかるようになり、さらには利用者の減少による使用料収入が減少する中、その財源確保にも、町民文化センターのリノベーションを図り、文化の拠点整備並びににぎわいや地域のつながりを進めることを目的として、交付金を活用して、自立・自走する複合施設として整備を進めているところでもあります。

次に、旧土木事務所改修事業につきましては、私が就任する前から現在の町体育館の老朽化に伴い、体育館建設を行う予定地として取得することが目的であった土地でありましたので、土地自体は将来性を鑑み、購入することを判断いたしました。町の財政状況や将来の財政推計を予測し、優先順位を検討した結果、すぐに新築の箱もの事業を行うのではなく、同時進行しておりました地方創生総合戦略の中で、定住促進策の課題として、女性が住みやすい魅力ある町にすることが望ましい意見が町民の方々からもありましたので、地方創生交付金を活用し、既存の建物を最低限度のリニューアルを行い活用する方針といたしました。町民の皆様方からいただいた御意見を踏まえ、町のブランドイメージを高めると同時に、町有地の有効活用を進めるため、官民連携等の手法を用いてコンセプトやイメージプランを描き、子育てをしながら安心して働ける場所、子育て世帯の方々と集うコミュニケーションの場所となるなど、多くの皆さん方に活用していただけるよう、必要な施設改修に取り組んでいるところでもございます。女性並びに関係する皆様が働く環境の創出や活躍をサポートしていくための拠点づくりを進めることで、魅力あるまちづくりを発信し、定住少子化対策や生産年齢人口の増加、並びに地域コミュニティの機能の向上に引き続き取り組んでまいります。

次に、木質バイオマスエネルギーの導入計画につきましては、地方創生総合戦略の基本目標の産業・交流づくりに位置づけています。再生可能エネルギーの導入に向け、町の森林という地域資源を最大限に生かすため、今後ようやく環境省の100%の補助金を獲得することができましたので、再生可能エネルギー利用の導入可能性調査を実施し、森林の適正管理、減災機能の向上、有害鳥獣被害の低減はもとより、エネルギーの地産地消を行う新たな取り組みを構築することで、外部へ流れている資金を地域へ取り戻し、地域内で資金を循環し、

さらに雇用を生み出すなど、地域経済の活性化につながる先進的なエネルギー利用の促進に向けて取り組んでいるところではあります。今後は調査結果をもとに、実施可能な計画策定を行い、民間が主体となって進める事業として支援していく所存でございます。

寄1番地の活用事業につきましては、地方創生総合戦略の基本目標である「夢や期待に応える住環境づくり」として、一定規模の民間事業者の需要が期待あるいは見込まれる用地を、中長期的な視点で民間の独立採算事業での収益等により、持続可能な財源を確保し、人口減少対策や地域の活性化、有効な生活環境の形成支援を図っていく計画とした基本目標に沿った事業の一つであります。

このように、御質問にありました全ての事業につきましては、平成28年3月に地方創生総合戦略を策定し、町民や議会の皆様にもお示しし、町民や各種団体、民間事業者等と連携し、地域が一体となった推進体制を整え、今まで実施できなかったさまざまな施策や事業について、今回の地方創生交付金を活用し、町民負担を最小限に抑えながら課題を解決する事業を行うことができる、チャンスを生かして町にとって必要な施設等の整備を進めているところでもあります。特に財源につきましては、地方創生交付金を初めとする国や県の財政的支援を積極的に取り入れ、将来を見据えた最も重要な町の健全財政を進めるために、基本目標の達成に向けた評価指標を定め、町総合戦略推進会議において、毎年P D C Aサイクルにより点検、評価、改善を実施し、人口減少の克服と地方創生の高い実現性に向けて取り組んでいるところでもございます。

このたび御質問いただきましたとおりに、町の将来構想において必要不可欠な事業ばかりがまだまだ残されており、財政上非常に厳しい状況には変わりはありませんが、議会や町民の皆様にも御理解を賜り、今後も必要な事業につきましては、強力に進めていくようにするために、第6次総合計画やアクションプランに明記をして、町民の皆様方に計画や方針をしっかりとお示ししながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

8 番 小 澤 大変な量の答弁をいただきまして、ありがとうございました。議長ね、できれば今、町長が読み上げた原稿を、私、当日でも、この朝でもいいから、やは

り一般質問された議員に配っていただきたいな。やはりそれを見ながらね、今の町長の話聞いていくと、やっぱり次の質問に対してスムーズに入っていけるんですよ。今お話をされた中で、やはり言われたことを箇条書きに書きとめていかなくちゃいけないって、まあ、大変な作業もあるんで、できればその辺も考慮していただけたらな。これは議長へお願いしておきます。

それでは一般質問に入らせていただきたいと思います。南足柄と小田原の合併問題があった中で、やはりその残された上郡5町の中で、広域連携の話を進めていこうよということで、たしか副町長クラスでそういうような話し合いがされたと思うんですけども、開成町の小澤副町長が何かおやめになって、あの方がリーダーシップをとってやっていたようなことも聞きますのでね、その後立ち消えになっちゃ困るなと思って。その辺の、現在に至るまでの経過というものはどうなってるんでしょうか。

副町長 今、小澤議員が申されましたように、これは小田原市と南足柄市の2市の協議の中から始まりまして、それであれば上郡5町がですね、どのような連携というところができるのか。その目的についてはですね、この地域の向上とですね、住民サービスの向上といったところを目的にやっていきたいと思いますということで、平成29年の5月にですね、第1回を始めまして、ことし30年の7月まで、6回にわたってこの会議を開かせていただきました。あしがら地域創生連携推進協議会というところでございます。

小澤議員おっしゃるとおりですね、開成町の小澤副町長さんがですね、会長となり、副会長はですね、山北の山崎さんが副会長というところで出発しておりました。途中でですね、小澤議員…ごめんなさい。小澤副町長がですね、退任されたということで、その副会長でございます山崎副町長をですね、会長代理ということで、ことしの7月までですね、会議を進めまして、このあしがら広域ビジョンというところをまとめさせていただいた経緯でございます。小澤副町長がいる、いないではなくてですね、やはりその内容としましては一回一回で大分、町長、副町長としてですね、活発な意見交換はさせていただいているところではございます。

ただやはり、私がちょっと感じてるところによりますとですね、やはり行政

だけの議論でいいのかなと。やはり上郡を見ますとですね、各町の住民の方々、やはり生活圏というところもございますのでね、なかなかやはりこう、一つにまとめて、方向性をまとめるというのは難しい部分もあるなというところは感じたところではございますけども、やはりそのような形で6回やらさせていただいています。

ただ、今後ですね、小田原市、南足柄市がですね、合併にならなかったという結果を踏まえますと、やはり過去の歴史にのぼりますとですね、やはり南足柄市を加えた1市5町というところですね、今後連携を図っていかなければならないではないかなというところは、各副町長とも確認をさせていただいたところなんです。ただ、5町でつくったこの広域ビジョンというのをですね、またゼロから解体するんじゃなくて、それを一つの基本としてですね、じゃあ南足柄さんどうでしょうかというところですね、再度協議を連携に向けてのですね、協議を開始させていただきたいなというところで、確認をしているところでございます。以上です。

8 番 小 澤 開成町の小澤副町長って、名字同じですけども、別に私、関係ありませんので、そこはちょっと断っておきます。今、副町長のほうからですね、南足柄市も声をかけて1市5町でやっていこうよということで、南足柄が入らずにずっと来た経緯、ちょっとやはりおかしいのかなというような感じは受けてました。ただ、やはりここへ来てですね、新聞紙上で、やはり広域連携というような中でね、シルバー人材センターだとか社会福祉協議会が、やはりその上郡5町の中で連携をとりながら協議会を立ち上げていこうよと、こういうような動きも出ているわけですから、やはりこういった広域連携に向けてですね、やはりもっと積極的にあらゆる分野にわたって意見交換をし、できるものはやっていくというような形をとっていただきたいと思っています。

やはり先ほども町長の話にありましたように、2040年に向けてこの足柄平野の人口減少というものは、やはり避けて通れない。足柄平野全体でも25%超えますよと。松田町も1万人の人口が7,000人ちょっとになってしまうと。やっぱりこれは、ただやっぱり避けて通れない。今、町が1万人の人口を確保しようよと言っていますけれども、ただ、現実としては非常に厳しい状況の中で、

財政、人口が減少していく中で税収が落ち込んでくる。税収は落ち込むけれども、高齢化社会の中で社会保障費が増大をしていく。町の財政に対する、このままで行くとやはりかなりの圧迫されるような懸念もあるわけですから、やはりこの広域行政を進めた中でですね、各町でできるものは得意分野をやってもらおうと、そういうような仕事の分担がね、具体的にされていけばいいな。しかも、それも20年先の話じゃなくて、今からやっていかないと20年先に間に合わない。こういうようなこともありますので、ぜひ進めていただきたいと思います。昨今では、水道事業の公設民営化、要するに水道管の老朽化の問題、とても1つの自治体では負担しきれないというような声も上がってきますので、そういった面も含めてね、やっぱり広域行政必要なのかなと感じています。

それで、このあしがら地域広域ビジョンの中で、基本認識として5つほど上がっていますけれども、今回その中で3つほどに重点を置いてお伺いをいたします。まず、定住促進、交流人口の拡大ということがうたわれておりまして、やはりこれは足柄平野においても一番大きな問題なのかなという、思っているんですけども、ただ、観光事業ですから、私は観光協会がもっと連携を密にして、この辺ですとあと山北町の観光協会、南足柄市の観光協会あるんですけども、この辺の連携というものは常時とれているのでしょうか。

参事兼観光経済課長　それでは小澤議員の御質問にお答えさせていただきます。ただいまの御質問のですね、松田町・山北町・南足柄市にある観光協会との連携ということでございますが、この3つの組織をですね、1つの形にした団体というのは、今現在発足はしておりません。今現在あるのは、足柄観光協会ということで、県が事務局をやっていただいている中に、各観光協会の事務局長さんとかが入った中でですね、足柄上郡全体のもので、活動等についての調整をする団体がありますが、今現在のところ3つの観光協会を持っていろいろな事業を展開していくというところには、今現在至っていないのが現状でございます。以上です。

8 番 小 澤　ですからこれをね、やっぱりその広域連携の中で、その3つの観光協会が、やはり定期的な打ち合わせをしながら進めていく必要があるだろうと、こうい



うふうに思ってます。矢倉沢往還のウォーキングマップなんか出てきました。もうやはり一つの自治体の枠を超えて、秦野から松田、開成、南足柄と、自治体の枠を超えた中で広域なそういった観光行政が必要になってくるのかなと思いますので、こういうことをですね、やはり進めていこうと。山北、南と声をかけ合ってやっていこうというような動きといたしますか、そういうような方向性は、今、具体的にどうなんでしょう。あるんでしょうか。

参事兼観光経済課長　それではですね、御質問にお答えをさせていただきます。まず1点目がですね、松田町観光協会もですね、この4月からですね、新たに一社化をしてですね、ひとつ稼げる団体としての観光協会との位置づけをさせていただきました。また今回のですね、きらきらフェスタの開催に当たってもですね、南足柄市の観光協会さん、並びにですね、山北町の観光協会さん等にですね、御案内をさせていただいてですね、ひとつこれからも連携を図っていこうという意味を込めてですが、手をつなぐということで、まず第一歩目をここで踏み出させていただきました。また、その3つの各観光協会もですね、やはり気持ちは一つで、やはり交流人口をふやすことによって町を潤していこうという目的は同じでございますので、やはりここはですね、3つの観光協会、あわせて町もそうですが、お互いにですね、先ほどのあしがら広域のビジョンではございませんが、やはりここは1市5町含めた中でですね、各、もう一つの団体といたしまして、今現在1市5町ですね、町を対象に、あしがらローカルブランディングという協議会ができておりますので、その中でもですね、やはり新たな今後ですね、食を含めた中でこの1市5町をですね、盛り上げていこうということで、30年度、31年度、事業を予定しておりますので、その中にですね、やはり観光協会さんも入ってございますので、その中でですね、観光協会、または町もですね、お互いに連携した中でですね、両方、観光協会として3つの団体との取り組み、また1市5町での観光に対しての取り組みとですね、その両方を連携をしながらですね、よりよい形にですね、今後持っていけるようにですね、観光協会の町ですね、会長等にですね、私のほうからその点についてお話をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。以上です。

議 長 政策推進課長、ありますか。

政策推進課長 質問ありがとうございます。このあしがら広域ビジョンにおきまして、各1市…今、1市3町で今、協議をしています。その中で観光振興というところに強く、今、事業取り組んでいる中にですね、先ほど町長のほうから言いました未病バレー、広域の大井町さんの拠点を使いながら、広域的にどう周遊性を強化していこうかということで、その中にはもちろん行政も入っておりますが、各商工振興会、商工会も入ってます。あとはですね、観光協会さんもあわせてどのようにしていこうかという協議を進めていますので、そこに神奈川県を交えて今は進めておるところでございますので、そういうところでさらなる強化、広域連携強化をして取り組んでいきたいというふうなことで進んでいるところでございます。

8 番 小 澤 ありがとうございます。前向きにですね、やはりどんどん進めていっていただきたいなと思ってます。

町長の答弁が長くて、私はあと30分しか時間がないので、ちょっと早めに聞きたいと思えますけれども。今、商工会の話が出ました。やはり観光協会と同じように商工会もね、足柄上商工会と山北の商工会と南足柄の商工会、これですね、私はそれぞれが連携をとってやっていく必要があらうかと思ってます。聞くとところによると、時々話し合いはあるんだけど、定期的な連携をとっているような様子もないんですけれども、この辺についてもね、やはりその既存産業の振興していこうということで、私がたしか3月議会で事業承継について話をしましたけれども、これについても今の商工会サイドではなかなか動きが見られないのが現状なんですね。だからやはりこの辺は県も交えた中で、足柄平野の産業をどうしていくんだというような話し合いがね、山北、南、足柄上という形でできないのかなと思ってますけれども、この辺についてはどうでしょうか。

政策推進課長 ありがとうございます。先ほどのですね、観光振興という起点と、もう一つ産業振興というのがございます。この中の取り組みの一つとしまして、神奈川県と1市5町と連携をし、今後発展する、未病産業ですね、先ほど未病産業に力を入れて集積を促進すると。またですね、エネルギーの地産地消という観点

も踏まえて取り組んでいく中にですね、地域金融機関さんと、商工会さんと連携をし、その地域における創業促進するために、今後も引き続き、県を交えてやっぱり取り組んでいこうという考えがございます。またですね、創業、いわゆる事業承継についても、広域的に何かできないかということで、神奈川県の方でですね、事業継承についてさまざまな補助金、相談窓口もありますので、そこもリンクをしながら広域的に取り組んでいこうということで今、進んでいるところでございます。

8 番 小 澤 金融機関もですね、やはりこの事業承継に対してはかなりその、何ていうんですか、表に出ないけれども、内部ではかなりそういう情報を把握されてるといようなこともありますのでね、やはりこの、何とかその、零細企業がうまく次の代に引き継げるような、そういう形を意識的にとっていかないと、皆さん高齢になってやめていってしまう恐れが非常に強い。私、心配しているのが、今の松田町においても、この12月で何店舗かが閉店をされていく。結局皆さん健康と高齢化なんですね。で、やめていく。放っておくとシャッター通りになっちゃいますよ。これは商店街がシャッター通りになると、今度住民の安心・安全に対して非常にその通りが無防備になっちゃうので、ちょっと危険だなということを感じています。

そういう中で、企業誘致の話もあります。未病関連、実はここでね、このことについてね、私は商店街あちこちちょっと見て歩いてますけれども、この間商工会と一緒に東京の中延商店街、品川からちょっと西の中入ったところなんですけれども、ここが高齢者に優しい商店街ということで、見に行ってきました。何で高齢者に優しいのかなと思ったら、そのアーケードのある商店街の中にですね、開業医関係がかなり入ってるんですね。商店街の中に6つだか7つ、開業医の、専門の開業医が入っていて、あるいはその中に関連して整体師だとか、それから介護関係のいろいろ扱ってるお店、当然開業医がいますから、薬局も出てますね。やっぱりそういった開業医を中心として、それに関連する業種が商店街を持たせている。

やはり高齢化社会の中で、どうしても病院にかかる率が多くなって、この中延商店街も始まりのところに2つの駅が交差してまして、非常に電車で行く

には便利なところなんですね。ですから年寄りが、ちょっと医者にかかりたいというときにそこへ行くと、いろんな種類の耳鼻科があったり、眼科があったり、歯医者があったりというような、並んでいるということで、そういった開業医を中心にしてですね、薬局だとか介護用品、あるいは食事をする飲食、コンビニ、それから帰りに買って帰る惣菜屋さんだとか、そういった関連のお店が並んでいる。やはりこれもそういった商店街対策にもなるし、未病関連の企業ということで、大きい会社じゃなくても、そういうところをこの町の中に誘致していく。松田というところは駅に恵まれたところで、既に開業医もありますけれども、この辺をもっと重点的にやっていくと、ちょっと手っ取り早いかなというような感じもしています。未病関連企業ということで、なかなか開業医というのはぴんとこなかったんですけども、その辺もですね、ひとつ狙いどころなのかなというような気がします。

それからあと、健康寿命の延伸ということもうたっていますけれども、やはり健康寿命の延伸ということになりますと、食事、よく食育と言ってますね。食育と、それから運動と、それから生きがい。この3つがですね、非常に重要な要素になってきます。高齢者が医者にかからないように、できるだけかからないように過ごしてもらうためには、やっぱりこの3つが必要なんですね。やはりこれから介護とか、国保だとか、社会保障費の増大が予測されている中で、何とか抑えようとしていくためにはね、やはりこの食育と運動、生きがい、これを意識的にやってもらうような、できるような、そういうような施設が、やはりこの足柄平野の中で幾つかできてくるといいな。それが健康促進センターの、名前はどうでもいいんですけども、そういうような形で行政が中心になって、そういうものを幾つかつくっていくようなことも、私はやっていただきたいと思えますけれども、そういうような発想というか、そういうものはおありなんでしょうか。

政策推進課長 はい、ありがとうございます。今、広域的な観点におきまして、健康寿命の地域づくりというものを掲げてございます。その中で、現在ですけども、大井町の未病のあのエリアを使いながら、食、健康、運動等々、回遊性を求めてやっていこうという取り組みがございます。町の単独の事業の中にですね、今回

の総合計画の中にもちょっと位置づけてございますが、健康増進計画と健康づくりのプログラムの整備ということがございます。こうした観点の中にですね、やっぱり食というものも取り組んでいきたいと。あわせてですね、高齢者が活躍するという観点の中にですね、老人の方がシニアクラブの活動の自主的な活動も視野に入れて取り組んでいこうというものを、総合計画にも掲げていきたいというふうに思いますので、あわせて取り組んでいきたいというふうに思います。

8 番 小 澤 やはりこれ重要な、これから先に向けての重要な課題であるのかなというように思ってます。

それからもう一点、広域関連につきまして、地域間の循環バス、これは各町でそれぞれ計画、運行されている部分もありますけれども、これを足柄平野全体の見た中で、そういった地域間の循環バスがこれから先さらに必要になってくるのかなと思いますけれども、この辺については何か進捗があるんでしょうか。

政 策 推 進 課 長 公共交通、いわゆる地域間交通ということで、現在町のほうでもですね、地域公共交通会議という会議、法定会議がございます。その中でですね、地域におけるバス等の協議をしていることがございます。そうした中でですね、今後、多面的な部分もございますので、その協議会を含めて広域的に何かできないかというのを協議をしていきながら、広域できること、できないことを今後協議していきたいという状況でございます。以上です。

副 町 長 先ほどあしがら地域創生連携推進会議の中で、やはり一番思ったところが、その公共交通というところです。意外と松田に住んでますと、松田の新松田・松田駅を中心にですね、山北へ行ったり、大井町へ行ったり、開成へ行ったり、ちょっと不便さというのはそんなに感じないんですけども、例えば中井町に行くときにどうしたらいいのかなとか、もうあそこはバスの営業区域というのがありますがね、神奈川中央交通さんがやってるところで、直通がありません。例えば、じゃあ中井から山北に行くのがあるのかというと、なかなかございません。この中の研究課題の中でですね、やはりその連絡する交通網が不足してるんじゃないかというのが大きな課題として出ております。ですからこ

の辺はですね、早期にその路線バスにすぐに結果が至るかということは別としましてですね、やはり今小澤議員が言われましたように、お互いに連絡するバスをつくるとか、また公共施設の現況と将来の課題というところも出ました。その中に病院というのもありました。各地域に今、病院があります。特に松田町は上病院があるんですが、そこに徒歩で行ける800メートル区間の人口、今の人口と、平成40年に…ごめんなさい。そうですね、40年代に向かったときの人口を比較してみますと、当然歩いて行ける人がだんだん少なくなっていく。そうするとその施設が無駄になってくるのではないかとこのところがございます。そうするとそういう病院を、各病院を回るバスをつくったらどうだとかいうところも議論に、具体的に議論に入っていけると思いますのでね、この辺はぜひですね、ワーキンググループというところも今、まだ引き続きやっておりますので、一つの緊急的な課題としてですね、提案させていただきたいなというふうには考えているところでございます。以上です。

8 番 小 澤 ありがとうございます。副町長にはぜひその辺で頑張っていたきたいと。副町長だけじゃなくてね、やはりもう、町長にも私は旗を振ってもらいたいと思っております。今ここで大井町の町長が交代をされることになりました。開成町も来年選挙があります。本山町長ももうこれで6年、ちょうど油が乗り切ったときですから、この足柄上郡のこういった広域行政に対して、やはり松田の町長がイニシアチブをとってほかを引っ張っていくような、そういうときに来てるんじゃないかと思うんですけれども、町長のお考えをお願いします。

町 長 ありがとうございます。とんでもない、とんでもございませんというふうな感じですけども、引っ張っていくというより一番馬力があるので、下からぐっと押すようなことはしていくべきだというふうにも、私も思っています。やはり大先輩たちがいらっしゃいますから、その背中を見させてもらいながら町政運営させてもらってるところもありますのでね、そういう気持ちでいきたいなとは思っています。

先ほど巡回バスの話もありましたけどもね、大井町の町長さん、確かに御退任されますけども、たくさん学ばせていただきましたし、相談もさせていただきました。このバスについては、今現在その大井町さんのバスが上病院まで来

たりとか、されてます。ひととき相談したときには、全然普通に乗ればいいじゃないかというふうなことを言われたりとかしてましたけども、そういったルールづくりもですね、できてなかったんで、2町でできることは2町から始めていきたいと思いますという話はさせていただいたところもあります。今回、先ほど来話があったその広域ビジョンの中で、20ぐらいの事業について今、検討中なんです。今お話あったように、そういったところの分についても今、検討されてるというところもありますし、なかなか5町では話がまとまらないときは、やっぱり陸続きでもありますしね、まあ橋はかかってなくて、ただ大井町の新しくなる町長さんと、具体的にお互いのその足りないところを補いましょうというようなことをやったり、例えば大井町さんで言うと、もう今回パークゴルフ場はつくらないって話がありました。特別、温泉はいこいの村まで行けばいいんでしょうけども、うちの保健センターもありますよね。そこを全然使ってもらってもいいんですけど、何かやっぱりハードルがあるような話もされますし、せんだってその件に関しては府川町長さんともそんな話をして、やはりもう少し面で物を見るというような取り組みをやらなきゃいけないというのは、今のやめる間宮町長も当然ですけども、これからの新しくなる町長さんもそういったことは訴えていらっしゃるんじゃないかなと思うので、期待をしているところでもあります。ですので、小澤議員から言われてるようなことはですね、本当に具体的に一步でも進めていかない限り、あつと言う間に時間がたっちゃうと思いますので、その辺はしっかりと提案をしてまいりたいというふうに考えてます。以上です。

8 番 小 澤      ありがとうございます。前で引っ張れなければ、後ろから押してもらって結構ですから、やはり20年先を目指して今から進めていかないと、なかなか実現が難しい話かなと思いますので、よろしく願いをいたします。

それから2番目の交付金についてお尋ねをしたいと思いますが、私はここ二、三年のこの交付金のあり方を見ていく中で、一生懸命頑張って提案をして、これをもたらしてくるのはよくわかるんです。ただ、何かそれが消化不良を起こしてるのかなという感じがします。やはり町民の声を聞いていく中で、例えば文化センターの問題についてもですね、この間文化祭がありました。舞

台がうまく使えない、狭いんじゃないか。あの上で踊りを踊ってた人たちも、女踊りはできたけども、男踊りはできなかった。何であそこにあんなボルダリングの施設をつくったんですか。こういう声があります。文化センターなんだから、私たちの文化を発表できるような、そういう場所であってほしいよという声。それから、雨漏りを直して音響も設備をよくしたんだから、何であそこで文化活動ができないんですか。講演会を開いたり、あるいは映画鑑賞会をやったり、音楽会をやったり、こういうような文化活動をやってもらいたい。それが文化センターの役割じゃないのか、こういう声。あるいは、あそこまでやったんだから、なぜ図書館の拡充ができなかったのか。今ある蔵書のうち3分の1が閉架書庫で眠っちゃっている。これを町民が手にとれるような、そういうところに出してもらえないのか、こういうような声ですね、ありました。お金をかけて、1億1,000万ものお金をかけてつくったけれども、非常に文化センターとしては違和感を感じている。そういう声が町民の中からも出ております。

それから松田土木事務所につきましてもですね、この間その会議に参加されている女の方ともお話しさせてもらいました。あの松田土木事務所の1階のほうで、あなた方参加する予定なんですかというのと、皆さん口黙っちゃって、話が進まないんですよ。だからあの1階の部分について、果たしてどうなるのか。誰が入って、あるいは町の人や女性たちが、あの中でどういう動きをされる、どう活用、活動をされるのか。その辺がどうも見えてこない。2階のところの子育て支援センターとか、ファミリーサポートセンターが入るよというもの、途中からそういう話になっていますよね。最初はそうじゃなかった。結局何ていうんですか、具体的にこういうものをつくらうというものがなくて、ただ理念だけが先走っちゃって、ああいう形になってるのかな。だからなかなか具体像が見えてこない、そういう懸念があります。

それから木質バイオマスエネルギーやるんだよと言ってますけれども、寄地区で、あるいは松田町で本当にそれが必要なのか。それだけの資源があるのか。あるいは搬出コストが楽にできるのか。あるいは事業をやったときの採算性はあるのか。どうも私は疑問に思ってます。1,370万の国の全額補助ということ



で始めたようですけれども、調査をした結果、ああやっぱりだめだから終わりだよになってしまうのか。それとも松田町として、何としてもこのバイオマスエネルギー問題を、この寄地区の目玉として実現させていくんだ、そういう信念があってこれ取り組んでいるのかどうか。非常に疑問なところを私は感じています。

それから寄1番地の開発問題ですけれども、やはり松田町にとって、これはもう至上命題としてやらなければいけないのか、今やるべきことなのか、そういう町民のニーズがいっぱい出ているのか。その辺の把握も私はちょっとわからない部分があって、言ってみれば、寄附をいただいた土地をいつまでもほっぽっておくと町民から言われるから何とかしようよという程度の話なのかね。あそこにそういった施設をつくることによって、それが町民にとってどれだけのプラスが出てくるのか。町にとってどういうメリットがあるのかというようなことも踏まえた中で、もっと煮詰まった意見があるんじゃないのかな。こういうようなことも感じています。言い方は悪いですが、一生懸命頑張って交付金をとった。とって、さあ、じゃあそれをどう使っていこうか、どう処理していこうかというときに、どうもその辺の中にですね、私は消化不足があるのかな。これは、こんなことを言っているのかどうかわかりませんが、町長が期待する部分と、それから職員との間に、もっとかみ砕いた意思の疎通がされていけば、その辺がちょっと気かりな部分があるんですけども、私が勝手に指摘をした中で、いや、とんでもないというような意見もあろうかと思いますが、私が今指摘した中で、担当課長さん、いや、それはあんた違うよということであれば、ひとつお話を聞かせていただきたいと思えます。

町長 御質問ありがとうございます。一つにまとめて話すると、危機感の問題だと思います、危機感。総論賛成、各論反対、前に進まないですよね、本当に。非常に、そういった部分がこの町にはありすぎる。ましてや、この役場もあるかもね。そういうふうに感じるところが非常にあります。しかしここは、選挙に勝ち上がって、この立場にいる以上、やるということに対してはやらなきゃいけないです。そこはやはり、町政は財政だというのは私思っています。その中で、今まで遊んでいたところを、やはり生かしていかないといけない。例えば

寄1番地に関しては、約500万…600万ぐらいですかね、固定資産税をちょっといただいてた。その中で今、いただきながら遊んじゃっている、これはやはりよろしくないな。何でも今やっていることについては、今までのツケを、何か一つずつ、何ですかね、払いながら、でも前にも進まなきゃいけない。非常に難しいというふうに周りと言うかもわかりませんが、しっかりとやっていけば、何の難しいこともないんじゃないかなと思うんですね。

これは、計画的に、これは民間の事業をやっているわけじゃないので、やはり町民の方々にですね、一つ一つやはり丁寧に説明をしながらというふうなことは、もう前々からお話しされてて、そうそうあるなというのも私も感じてはおりますが、せんだって小学校の説明会をさせてもらってですね、あるお母さんが小学校のパブリックコメントをね、とってる。知らなかった。知らないはずないのになと思うんですけども、なかなかその辺のホームページに載ってましたとか「広報まつだ」に載せてあれしているんですけども、なかなかその情報が伝わらない。その伝わらない内容は、もうちょっと我々がいろんな面でお話をする機会をですね、つくって、皆さん方と話をもっともっと丁寧にしなきゃいけないかなという反省は非常にありますけども、ただ本当に、今のまま、考えて考えて考え抜いて、今までと同じようにやって、さあやろうといったら、すぐ二、三年たってしまっていて、時代が違う。非常にそういった点でいくと、職員の人たちには非常に迷惑かけているかなと思いますけど、今は松田町は、走りながら考えながらやらなきゃいけないところもある。しかし、必ず負ける戦いをするつもりは全くなくて、町民の方々の少しでもためになることを前進してやっているというふうには御理解いただきたいなど。ただ、そのために、御理解いただけるための丁寧な説明が足りないなというのは反省していますので、一つ一つの説明は、各課長さんが、これから時間の限りやられるか、そこは小澤議員との話になりますけども、そういった気持ちでやはりやっていく必要があるのかなと。

これは本当、職員教育だとか、そういった面で言うと、しっかりとその認識をですね、先ほど話をしたように、自分のことと思ってやっていかないと、本当財政がどうなるのか、じゃあ一つ一つ文化センターのことに対して、文化セ

ンターのことしか思っている人はそう言いますよ、多分、何でこうとか、ああとか。そうじゃなくて、全体を見て、総合的に判断をさせてもらっているということに対してが、なかなか説明不足なんだろうなと思って、今聞いていて反省しておりました。今後、そういうことがないようにですね、丁寧に説明する場所をつくりながら、やはりやっていきたいというふうに思っていますので、今後ともですね、いろんな情報が入ったときには叱咤激励をいただきながら、教えていただけると対応してまいりやすいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

8 番 小 澤 今、町長の答弁は、私に言っているのか職員に言っているのか、両方に言っているんだろうとは思って聞いていました。先ほど、町長が言われましたように、未来を予測できない町に発展はない、これは確かなことで、町長が将来に向かって、これもやっぺいこう、これもやらなきゃいけないんだ、そういうような使命感の中でね、いろんな、多分、地方創生の交付金も取れるものは取れよというふうなお話が職員に出ていると思うんですけども、ただ、そこにですね、どうも消化不良あるいは町長と課長さんとの、それを実行していく上でのすり合わせというものがもっと必要なのかなということ、はたから見ている感じのわけですけども。私は町長が言われた、未来を予測して行動していかなければ発展はない、これは確かな言葉なんでね、それに向かって、やはりトップとそれから幹部職員が一つの方向に向かって、一生懸命頑張っていたきたい。そうやっていただけるんならば、私が言っているような懸念はないわけですから、ぜひそういう方向でやっていただきたいと思います。ただ2040年に向かったときに、先ほども言いましたけれども、税収が落ち込んで、人口が減って、そして社会保障費がふえていく。財政を圧迫する。この現実だけは避けようがないんですよ。それを念頭に置いた中で、今からどうやっていくか、それをぜひ真剣に考えていただきたいと思います。ちょうど時間になりましたので、これで終わらせていただきます。よろしくお願ひします。

議 長 以上で受付番号第3号、小澤啓司君の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩をいたします。2時10分より再開をいたします。

(13時58分)